

## キャリア形成における認定資格

◎宮地 勇人<sup>1)</sup>

新渡戸文化短期大学 臨床検査学科<sup>1)</sup>

公益社団法人日本臨床検査同学院（以下、同学院）は、臨床検査の専門的人材の育成を通して良質な医療の提供に貢献する団体として、2014年4月に内閣府より公益認定を受け7年が経過した。第三者評価の拡がりなどを背景として、資格認定試験の受験者数は増加傾向にある。新型コロナウイルス感染症のパンデミックでは、ニーズに対してPCR検査が十分に利用出来ない状況が続き、その結果、医療のみならず、社会・経済に対する深刻な影響をもたらした。その背景には、検査室側要因として、PCR等核酸検査の遂行と必要な精度確保のため、検査要員の確保（資質と訓練）をはじめとした検査室能力が必ずしも十分ではないことが挙げられた。2020年2月、遺伝子分析科学認定士（2007年、一般社団法人の試験事業として開始）の資格認定試験は、POCT測定認定士（新設）とともに、公益事業追加の申請が内閣府にて厳正な審査のもと認められた。その背景には、検体検査の品質・精度の確保に係る医療法等の改正の施行（2018年12月1日）がある。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが続く中、病原体検査は、多様な核酸増幅検査が利用可能となった。多様なPCR検査における測定性能や施設の能力の違いの実態の把握と改善を目的として、令和2年度、令和3年度厚生労働省委託事業「新型コロナウイルス感染症のPCR検査等にかかる精度管理調査業務」が行われた。そこでは、安全な医療の遂行と感染制御のため、病原体検査の拡充と専門的人材の養成の重要性が強調されている。本講演では、同学院における遺伝子分析科学認定士の現状と展開についてキャリア形成の観点から整理するとともに、新型コロナウイルスPCR検査等の精度管理調査結果から見えてきた人的課題と対応について解説する。